

Ⅲ 学習指導案の作成

1 学習指導案作成に当たって

児童生徒の学びの姿を具体化し、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、指導内容の重点化に努め、教材の工夫・改善を図ることが求められる。

その際に、単元、1単位時間の目標及び目標を達成するための指導内容の配列を明確にし、ねらいと学習活動との整合性を図る必要がある。

そして、児童生徒の実態に応じて、学習活動に創意工夫を凝らすとともに、評価規準を設定し、児童生徒の実態や学びの姿を継続的に見取り指導改善に努めるなど、指導と評価の一体化を図ることが望まれる。

2 学習指導案作成上の留意点

(1) 学習指導案は、授業を成立させるための設計図であり、児童生徒の実態に即して、教師の設定した指導目標を達成するための全体構想であるが、学習者の主体はあくまで児童生徒であり、指導者の一方的な論理による展開に陥ることがないように、児童生徒の思考の流れを十分配慮する必要がある。

(2) 研究授業の場合は、「研究主題との関連」を適切に付け加える。また、研究授業によって計画的に研究仮説が検証できるように、研究授業における参観の視点を明確にする。

(3) 複式学級の場合は、次のことに配慮することが望ましい。

ア 学年別指導の場合には、間接指導時における教師の動きや学習活動を明らかにし、学習過程に明確に位置付ける。

イ 同単元指導の場合には、児童生徒の実態に応じ、同程度又は異程度の目標や内容を設定するとともに、適切に評価する。

ウ 青森県教育委員会発行の「へき地・複式教育ハンドブック」等を参照する。

(4) 特別支援学級の場合は、個別の指導計画に基づき、個々の障がいの状態、学習の習得状況、生活年齢等に応じて、目標、内容、指導方法を明確にするとともに、学習の進捗状況や成果を適切に評価する。

3 学習指導案作成の手順

(1) 教材に対する事前の実態把握

本時の内容に関わるものについて、事前に児童生徒の事態を把握しておくことが大切である。児童生徒のつまずきの状態、学習内容の深化・発展のための事前の情報を入手しておくことが、効果的な授業への前提となる。

(2) 目標の具体化・明確化

授業の目標を具体的に立てる。授業の目標が具体的に立てられていれば、指導の効果を正しく評価でき、次の指導の手立てが見えてくる。また、目標設定に当たっては、学習指導要領の目標・内容等をよく調べ、授業の目標のポイントをつかむことが大切である。

(3) 指導の順序と方法

ア 目標に迫るために、必要な指導事項を選び出し、組織化・構造化する。

単元や教材をどう捉えているかを、学習指導案の中でよく見えるようにすることが大切である。

イ 指導・支援の方法とタイミングを検討する。

1単位時間の授業の中には、一斉学習があり、グループによる話し合い学習や個別の学習もある。学習目標、教材の特質、児童生徒の能力や関心等を十分考慮して、どの場面で、どのような指導・支援をするのか、学習指導案の中にも記入しておくことが大切である。

ウ 児童生徒にとって、理解しにくいところを予測する。

児童生徒の思考の行き詰まりは、思考を深めるきっかけとなる大切なものである。研究授業の場合、この児童生徒の思考の行き詰まりと教師の発問、資料内容等との関わり方が吟味されるので、学習指導案の中に「理解しにくいところ」の手立てを明記することが望ましい。

(4) 本時のまとめと振り返り

本時の重点事項などをどのようにまとめるか、また、本時の学習を通して、児童生徒が何を、どのように学び、どのように変容したのかを、児童生徒の目線になって考える。

(5) 実現状況の評価

学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価（目標に準拠した評価）を重視する。児童生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす評価を充実させる。（指導と評価の一体化）

4 学習指導事例の様式

※様式は下北教育事務所ホームページからダウンロード可

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shimokita/youshiki.html>

(1) 学習指導事例（細案） ※要請訪問の際はこちらの様式を御活用ください。

ア 説明入り

イ 様式

(2) 学習指導事例（略案） ※計画訪問の際はこちらの様式を御活用ください。

ア 説明入り

イ 様式

(3) 道徳科学習指導事例（細案） ※略案については、適宜工夫して作成してください。

ア 説明入り

イ 様式

(4) 学級活動（1）指導事例（細案） ※略案については、適宜工夫して作成してください。

ア 説明入り

イ 様式

(5) 学級活動（2）（3）指導事例（細案） ※略案については、適宜工夫して作成してください。

ア 説明入り

イ 様式

第〇学年 〇〇科学習指導案例（細案）説明入り

日 時 令和〇年〇月〇日（〇） 〇校時
対 象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 単元（題材）名 「〇〇〇〇〇〇〇〇」（本時〇／〇）

2 単元（題材）について

(1)教材観

単元（題材）の学習内容をどのように捉えているのか、単元（題材）設定の理由を記述する。
・学習指導要領の目標や内容に基づいた教材の解釈と指導内容の具体
・学習内容の系統性（前後する学年の学習内容との関わり） など

(2)児童生徒観

単元（題材）に関する児童生徒の実態について記述する。
・本単元の学習に関連した観点からの集団（学級、習熟度別等）の学習状況
・学習内容に関する既習経験、興味・関心及び思考傾向
・各種テスト、児童生徒アンケートの分析をした内容 など

(3)指導観

単元（題材）の学習内容について、児童生徒の実態を踏まえ、どのように指導するのかを記述する。
・単元全体における指導上の工夫
・予想される児童生徒のつまずきへの対策や能力及び適性などへの配慮
・本時における児童生徒の予想されるつまずきとその対策 など

3 単元（題材）の指導計画

(1)単元（題材）の目標

・学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて記述する。
・児童生徒の実態、前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて記述する。

(2)単元（題材）の評価規準

単元（題材）の目標に応じて観点ごとに単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識>……………している。	……………している。	……………しようとしている。
<技能>……………している。	各教科等の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（R2 国立教育政策研究所）を参考とする。	

(3) 指導と評価の計画

「指導と評価の計画」の基本的な様式は、各教科等において異なるため、作成する際は各教科等の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(R2 国立教育政策研究所)を参考とする。

時	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知・技	思・判・表	主体的態度
1				
2				
3				
4				

4 本時の指導

(1) ねらい

単元(題材)の目標から導いた本時のねらいであり、学習評価の観点を考慮しながら指導の意図を記述する。

(2) 学習過程

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業づくりのためには、問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫が重要になります。例えば、児童生徒にとって必然性のある課題を設定することや、児童生徒に自身の考えをもたせる工夫をするなど、本時のねらいを達成するために、児童生徒がどのように活動し、どのような指導の手立てをとるのかを明らかにすることが大切です。
※問題解決的な学習を重視した指導方法の工夫については、p14「(1) 授業の充実 実践事項 3」を参照

段階	学習活動 (○発問 ・ 指示)	予想される児童生徒の反応	・ 指導上の留意点 ※評価
導入 ○分	学習課題		
展開 ○分	<p>学習過程には様々な項目や形式があるため、ここでは一般的なものを例示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 段階…導入・展開・終末(整理)など展開の過程を区分して記述する。 ・ 学習活動…学習の流れが分かるように、学習課題、まとめ、学習形態などを記述する。その際、教師の発問や指示も併せて記述する。 ・ 予想される児童生徒の反応…学習の流れに沿って、予想される児童生徒の反応を具体的に記述する。 ・ 指導上の留意点…予想されるつまづき(評価規準に達しないことが予想される児童生徒)への手立てなど配慮事項を記述する。 ・ 評価…評価場面を設定し、評価の観点や評価方法などを記述する。 		

終 末 ○ 分	まとめ		
------------------	---------------	--	--

(3) 評価

- ・している。(知識・技能)
- ・している。(思考・判断・表現)
- ・しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

児童生徒の学習状況を把握する視点であり、本時のねらいがおおむね達成された児童生徒の姿について記述する。また、指導と評価の計画に沿って、1観点、多くて2観点到にしばって記述する。

- ・ 単元(題材)の評価規準との整合性に留意してください。
 - ・ 「おおむね満足できる」状況(B)を具体的に想定し、授業で適切に見取り、授業改善に生かすようにしてください。
- ※下線は令和7年度の特に力点を置いて取り組んでいただきたい実践事項

〈参考〉「おおむね満足できる」状況(B)の具体的な設定例
 ※参考として、「おおむね満足できる」状況(B)を適切に設定するため、単元の評価規準及び「十分満足できる」状況(A)の例を併記しています。

小学校第5学年国語 「読書に関する情報を読んで活用しよう」
 単元の評価規準：文章の構成について理解している。【知識・技能】

- ・ 本時の評価 新聞記事の「逆三角形の構成」について理解している。
 (知識・技能 ワークシートから)

B：「見出し」、「リード文」、「本文」の構成を理解し、図に正しく書いている。
 A：上記の3つと写真や図表の関係についても書いている。

小学校第4学年算数 「変わりかた」
 単元の評価規準：伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察している。【思考・判断・表現】

- ・ 本時の評価 B：伴って変わる2つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴について考えている。
 A：さらに、数量の間の変化から規則性を見だし、どのように考えたか等の説明をしている。
 (思考・判断・表現 適用問題から)

中学校第3学年保健体育 「G ダンス」
 単元の評価規準：一人一人の違いに応じた表現や交流、発表の仕方などを大切にしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ 本時の評価 B：共生の意義を理解し、自己と他者の違いを受け入れようとしている。
 A：共生の意義を踏まえ、互いの違いに配慮したり、生かそうとしたりしている。
 (主体的に学習に取り組む態度)

(4) 板書計画

学習の過程と内容が分かるように構造化して示す。

第〇学年 道徳科学習指導案例（細案）説明入り

日 時 令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
対 象 〇年〇組〇名
指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 「(例) まわりをよく見て考えるきまり」 【内容項目C 規則の尊重】

本時で取り扱う内容項目の中から、どのような道徳的価値をねらいとするのか端的に表したものを記述する。なお、関連する内容項目を併記する。

2 ねらいと教材

きまりの意義を理解し、みんなのことやまわりの状況を考えて、きまりを守ろうとする〇〇を育てる。

「雨のバスでいりゅう所で」(小学道徳 生きる力4 日本文教出版)

道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を端的に表したものを記述する。また、授業において用いる教科用図書やその他の教材の題名を記述する。なお、その出典等を併記する。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

ねらいや内容項目についての教師の捉え方、指導の意図を明確に記述する。

(2) 児童生徒について

本主題に関連する児童生徒の実態やこれまでの学習状況及び教師の願いを記述する。

(3) 教材について

使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法を記述する。

4 学習指導過程

教師の指導と児童生徒の学習の手順を示すものである。一般的には、学習指導過程を導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動と主な発問、予想される児童生徒の反応、指導上の留意点、評価の視点などを指導の流れに即して記述する。

学習指導過程は、教師の指導の意図や児童生徒の実態、教材の効果的な活用などに合わせて弾力的に扱うなどの工夫をします。

段階	学習活動と主な発問 (○発問 ◎中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 ○分	本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味や関心をもたせたりするようにする。		

展 開 ○ 分	児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問などをしながら進めていくようにする。
終 末 ○ 分	学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする活動などを取り入れるようにする。

5 学習状況（学びの姿）を見取る視点

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、学習活動に着目した上で、何を、どのように見取るのかを記述する。

○道徳科の評価は、ねらいを達成できたかどうかを見取るものではないため、「～できたか」という表記はしない。「こんなふう考えていたか」「こんなふう考えようとしたか」のようにするのが適している。

○1単位時間の授業での学習状況（学びの姿）を蓄積し、大きくくりなまとまりを踏まえた評価や児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価につなげるものとする。

6 その他

他の教育活動などとの関連、教材分析、板書計画など、必要な事柄を記述する。

<参考> 「4 学習指導過程」における指導方法の工夫（例）

児童生徒が問題意識をもち、主体的に考え、話し合うことができるよう、ねらい、児童生徒の実態や発達の段階、教材や学習指導過程などに応じて最も適切な指導方法を選択し、指導の工夫をします。

教材の提示 読み物教材を提示する際、紙芝居の形で提示したり、劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする。その際、児童生徒の想像を膨らませ、思考を深めるために精選した情報の提示に留意する。

発問 教師の指導の意図に基づいたねらいに迫る中心発問と、中心発問を深めていくための問い返しや揺さぶりの発問を工夫する。その際、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛ける。

話し合い 考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて、効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

書く活動 必要な時間を確保し、考えを深めたり、整理したりできるようにする。また、ノートなどを活用することで、成長の記録としての活用や評価に生かすなどの工夫をする。

動作化や役割演技などの表現活動

特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣したり、せりふのまねをしたりして理解を深める動作化の工夫、音楽、所作、その場に応じた身のこなし、表情などで自分の考えを表現する工夫を試みる。

板書 思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をする。

説話 教師の体験談や願いなどを話すことにより、児童生徒がねらいの根底にある道徳的価値をより身近に、また主体的に考えられるようにする。

ICTの活用 道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるための手段としてICTを活用する。

第〇学年 学級活動(1)指導案例(細案)説明入り

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 特別活動編」を参照し、A案及びB案の二つの例を示します。

日時 令和〇年〇月〇日(〇) 〇校時
対象 〇年〇組 〇名
指導者 〇〇 〇〇

- 1 議題 A案「(例)がんばったね集会をしよう」 B案「(例)よりよい学級生活をつくろう」
学級活動(1) A案「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」
B案「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」

議題及び学級活動(1)の内容を記述する。

2 議題について

(1) 児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

(2) 議題選定の理由

議題が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。議題ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前の指導・事後の指導を含む学習過程を工夫します。その際、児童生徒が見いだした課題について、意見の違いや多様な考えを認め合い、折り合いをつけ「合意形成」したことを実践し、振り返る活動を取り入れることが大切です。

過程	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点	〇目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前 の 活 動	「事前の活動」は、児童生徒の活動(アンケートやノート等の記入)や教師の事前準備等について記述する。			
	〇月〇日 () 休み時間	・提案ポストの議題案を確認し、選定する。 (計画委員会) ※1	・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	〇「がんばったね集会」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 (学級会ノート) 〇友達のがんばりを認め合うことができる集会の内容を学級会ノートに書いている。 【思考・判断・表現】 (観察・学級会ノート)
	〇月〇日 () 帰りの会	・議題を決定する。 (学級全員)	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。	

本時	○月○日 () ○校時	・話し合い活動	・他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。	○多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。 【思考・判断・表現】 (発言・観察)
事後の活動	「事後の活動」は、児童生徒の活動や教師の支援について記述する。			
	○月○日 () ~ ○月○日 () 休み時間等	・係ごとに計画を立てて、協力して準備をする。 ・帰りの会などで係ごとに経過報告を行ったり、お知らせを伝えたりする。	・係は必ず複数名で担当し、全員で協力して活動できるようにする。 ・準備の進捗状況を途中で確認し活動意欲の継続化を図る。	○「がんばったね集会」のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 (学級会ノート)
	○月○日 () ○校時	・「がんばったね集会」を行う。	・集会のねらいを確認し、協力して実践できるようにする。 ・協力したり工夫して活動したりしている児童を称賛する。	
	「目指す児童生徒の姿」には「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前の活動・本時・事後の活動の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前の活動・本時・事後の活動の中に、全ての評価の観点を適切に設定する。			

※ 1 計画委員会

話し合いに必要な一連の活動計画を立て運営するための組織です。司会、黒板記録、ノート記録等で組織されます。学級活動(1)は、児童生徒の自発的・自治的な実践活動が大切であることから、計画委員会による活動が重要になります。

一般的には、司会と記録(黒板・ノート)を「司会グループ」、それに提案者と教師を加えて「計画委員会」を組織します。なお、「計画委員会」のほか、「学級活動委員会」「学級委員会」等として組織する場合があります。

5 本時について

A案 話し合いの順序を分かりやすく示した様式

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとまりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

(例) 1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」にするために、集会の内容を考えることができるようにする。

(2) 本時の展開

主な活動内容	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】 〈評価方法〉
<p>主な活動内容 本時の活動の流れが分かるように記述する。</p> <p>指導上の留意点 話し合い活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に記述する。 「～する児童生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、児童生徒一人一人に応じた具体的な指導・支援が分かるように記述する。</p> <p>目指す児童生徒の姿 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）と整合した評価規準を具体的に記述する。「十分満足できる活動の状況」について、抽象的な文言ではなく、具体的に記述する。また、評価の場面は1、2箇所に絞る。</p>		
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 計画委員の自己紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由や話し合いのめあての確認</p> <p>5 決まっていることの確認</p> <p>6 話し合い 話し合うこと① 「何をするか。」</p> <p>話し合うこと② 「がんばりを認め合う工夫はどうするか。」</p> <p>話し合うこと③ 「どんな係が必要か。」</p> <p>7 決まったことの発表</p> <p>8 話し合いの振り返り</p> <p>9 先生からの話</p> <p>10 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。 ・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。 <p>話し合いのめあて 「がんばったことを振り返ることができる集会の内容と工夫を考えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まっていることを確認する。 ① 日時…○月○日○時間目 ② 場所…教室 ③ ゲームで1つ、それ以外で1つ ・司会が進行に困った時は方向性を示唆し、児童生徒の合意形成を方向付けるような助言はしない。 ・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。 ・必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。 ・これまでの集会の経験をもとに必要な係については事前に短冊を用意しておき、今回新たに必要な係について話し合う。 ・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点などについて相互評価できるように助言する。 ・先生からの話（終末の助言）では、「①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等」について簡潔に述べる。 ・提案理由を意識した発言や建設的な発言、意欲的に参加していた児童を称賛する。 ・実践への見通しをもち、意欲が高まるように言葉掛けを行う。 	<p>○これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、「がんばったね集会」の内容や工夫について考えている。</p> <p>○みんなががんばったことを認め合う内容はどれがよいか根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈発言・観察〉</p>

B案 話し合いの流れを児童生徒主体で段階ごとに示した様式

(1) 本時のねらい (目指す児童生徒の姿)

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。

- (例) ・互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。
 ・異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け (個人として) 取り組んでいる。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉 ※指導上の留意点
導入 ○分	<p>児童生徒の活動</p> <p>本時の活動の流れが分かるよう、児童生徒の立場で具体的に記述する。活動の具体、指導上の留意点、目指す児童生徒の姿の記入についてはA案を参照する。</p>	
展開 ○分	<p>1 ワークシート「よりよい学級生活をつくろう」を活用して自分が宿題で考えてきた学級目標を確認する。</p> <p>2 「よりよい学級生活をつくろう」を活用してグループで意見を出し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた学級目標を発表する。 発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 グループとしての学級目標案を考える。 <p>3 全員で学級目標を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班で決めた学級目標案を発表する。 「よりよい学級生活をつくろう」を活用して、発表している人の考えを聞き、ポイントをメモする。 学級委員が調整役を果たしながら合意形成に向けて練り合う。 <p>・折り合いを付け、学級目標を全員で合意形成する。</p> <p>・合意形成した学級目標を確認する。</p>	<p>○互いの意見や可能性を生かし合った話し合い活動の仕方を身に付けている。 【知識・技能】 〈ワークシート〉</p> <p>○異なる意見から共通点を見だし合意形成に向け (個人として) 取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート、観察〉</p>
終末 ○分	<p>4 実践に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任からの合意形成した過程や全員で決めた学級目標に対する思いを聞く。 <p>5 学級目標を実現するために (予告)</p> <p>「次の活動は、学級目標を踏まえて個人の1学期の目標を決めてもらいます。」 (担任)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価表を切り離し、担任に提出する。 	<p>※児童生徒の思いを大切にしながら、学校・学級として育てたい資質・能力についてもコメントする。</p>

6 板書計画

第○学年 学級活動（２）（３）指導案例（細案）説明入り

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 特別活動編」を参照し、A案及びB案の二つの例を示します。

日 時 令和○年○月○日（○） ○校時
 対 象 ○年○組 ○名
 指導者 ○○ ○○

- 1 題材 A案「（例）6年生に向けて」 B案「（例）体験活動を学校生活につなごう」
 学級活動（３）A案「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」
 B案「ア 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」

題材及び学級活動（２）又は（３）の内容を記述する。

2 題材について

（１）児童生徒の実態

児童生徒の学級生活や学級活動における実態などを記述する。

（２）題材選定の理由

題材が設定された背景や教師の指導観などを記述する。

3 評価規準

各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。題材ごとに設定するのではなく、内容のまとまりごとに評価できるように設定する。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
例：～理解している。 ～身に付けている。	例：～見いだしている。 ～実践している。	例：～図ろうとしている。 ～取り組もうとしている。

4 指導と評価の計画

事前の指導、事後の指導を含む学習過程を工夫します。その際、日常生活における問題の原因や対処の方法についての話し合いを生かして、自己の課題の解決方法等を「意思決定」し、決めたことに粘り強く、自主的、実践的に取り組めるようにすることが大切です。

過程	時間	児童生徒の活動	指導上の留意点	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
事前の指導	「事前の指導」は、児童生徒の活動（アンケートやノート等の記入）や教師の事前準備等について記述する。			
	○月○日 （ ） 帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生のこれまでを振り返ったり、6年生へ向けた期待感を想起したりするアンケートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「6年生に向けて」のアンケートを用意し、5年生の生活を振り返った上で、6年生に向けての期待感を想起できるようにする。 ・「キャリア・パスポート」等を活用し、これまでの自分の成長に気付けるようにする。 	<p>○アンケートに答えることで、5年生の生活を振り返ったり、6年生に向けての期待感を抱いたりして、学習への見通しをもとうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【主体的態度】 〈アンケート〉</p>

本 時	○月○日 () 学級活動	・アンケートの結果や先輩からのメッセージを見て、5年生の振り返りと6年生に向けて必要な行動を探る。	・アンケートの結果を基に自身の振り返りができるようにする。 ・6年生からのメッセージを見て、最上級生としての自覚と意欲を高めるようにする。	○なりたい6年生の姿を明確にし、そのために必要なことについて考え、前向きに話し合っている。 ○話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。 【思考・判断・表現】 〈観察・学習カード〉
	「事後の指導」は、児童生徒の活動や教師の支援について記述する。			
事後の 指導	○月中	・意思決定しためあてを意識して実践する。	・一人一人のめあてを掲示するなどして、実践への意欲付けとなるようにする。	○意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
	○月○日 ()	・実践について振り返る。 (年度末までの各月末の帰りの会など)	・振り返りを行う機会を設定し、継続した実践になるようにしたり、必要に応じて新たにめあてを立てて取り組んだりできるようにする。	○実践を振り返り、現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている 【主体的態度】 〈学習カード〉
「目指す児童生徒の姿」には、「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、事前の指導・本時・事後の指導の一連の活動について、評価規準を具体的に記述する。その際、事前の指導・本時・事後の指導の中で、全ての評価の観点を適切に設定する。				

5 本時について

A案

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。
自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

(例) 最高学年になっていくための見通しをもち、そのために必要なことについて話し合い、自分に合っためあてを立てて実践できるようにする。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	指導上の留意点 ※資料等	○目指す児童生徒の姿 【観点】 〈評価方法〉
導入○分 つかむ	<p>児童生徒の活動 児童生徒の活動の流れが分かるよう、具体的に記述する。例えば、問題を把握したり、原因を考えたりする活動や、解決方法の工夫や個別の意思決定の場面等を、学習過程に位置付けて記述する。</p> <p>指導上の留意点 児童生徒の活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に記述する。 「～する児童生徒に対しては、～について～することで～できるようにする」等、児童生徒一人一人に応じた手立てを具体的な指導・支援が分かるように記述する。 児童生徒の活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>目指す児童生徒の姿 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）と整合した評価規準を具体的に記述する。「十分満足できる活動の状況」について、抽象的な文言ではなく具体的に記述する。また、評価の場面は1、2箇所に絞る。</p>		
	<p>1 アンケート結果から、6年生になるに当たっての自分たちの思いについて話し合う。</p>	<p>・アンケート結果をもとにして、6年生に向けて期待感を抱いていることに気付けるようにする。 ※アンケート集計表 ・「キャリア・パスポート」をもとに自分たちの成長を想起できるようにする。 ※「キャリア・パスポート」</p>	
展開○分 さぐる 見つける	<p>2 6年生になったら、どんなことをがんばっていききたいのかについて話し合う。 ・委員会活動 ・クラブ活動 ・運動会 ・歴史の学習 ・更に成長したい ・友達を増やす ・1年生のお手伝い</p> <p>3 6年生からのメッセージ映像を見る。</p> <p>4 どんな6年生になりたいか、そのためにどんなことが必要かを話し合う。</p>	<p>・6年生が活躍していた場面などの写真を活用し、最高学年として自覚と責任をもって行動する場面が増えることに気付けるようにする。</p> <p>・6年生からのメッセージ映像を用意し、「6年生としての心構え」や「自分たちが努力してきたこと」、「励ましのメッセージ」などについて語ってもらうことで、5年生が6年生へと成長していくために必要なことに気付くことができるようにする。</p> <p>・学習カードを用意し、一人一人が考えた上で話し合うことができるようにする。 ※学習カード</p>	<p>○なりたい6年生の姿を明確にし、そのために必要なことについて考え、前向きに話し合っている。</p>
	<p>決める 終末○分</p>	<p>5 これから6年生になるまでに自分が実践することを決め、伝え合う。</p>	<p>・ここまでの話合いで出された意見などを生かして、自分に合っためあてを学習カードに記入するよう伝える。</p>

B案

(1) 本時のねらい（目指す児童生徒の姿）

「内容のまとめりごとの評価規準」に即して、本時で目指す児童生徒の姿を具体的に示す。各学校で定めた評価の観点に基づき設定する。
 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかなど指導のねらいを端的に書く。

- (例) ・職場体験活動で学んだことを「キャリア・パスポート」に表現している。
 ・担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。

(2) 本時の展開

段階	児童生徒の活動	○目指す児童生徒の姿 【観点】〈評価方法〉 ※指導上の留意点
導入 ○分	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">児童生徒の活動、目指す児童生徒の姿、指導上の留意点の記入についてはA案を参照する。</p> <p>つかむ 1 職場体験活動を振り返ろう ・職場体験活動のしおりや「キャリア・パスポート」を読み返す。</p>	
展開 ○分	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">職場体験活動を学校生活につなげよう。</p> <p>さぐる 2 個人の活動 ・適性検査を基にした職場体験活動のねらいと、実際の職場体験活動の取組は合っていたかを振り返る。 3 グループでの話し合い活動 ・実際の職場体験活動中に学んだこと、職場の方とのやりとりを振り返る。 4 個人の活動 ・職場体験活動の感想をまとめる。</p> <p>見つける 5 個人の活動 ・職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。 6 グループでの話し合い活動 ・応援シートを使いながら、職場体験活動で学んだことが、今後の学校生活のどんな場面で生かせるかを考える。</p> <p>決める 7 個人の活動 ・担任のコメントや応援シートを参考に、これからの学校生活で伸ばしたい力を意思決定し、記録する。</p>	<p>※「キャリア・パスポート」を見直す。</p> <p>※「キャリア・パスポート」に記入する。 ○職場体験活動で学んだこと整理している。 【思考・判断・表現】 「キャリア・パスポート」 ※担任は机間指導しながら、自己理解、社会マナーやルール、進路決定や将来設計、役割等の視点からコメントする。</p> <p>※応援シートを使い、互いのよさやがんばりを相互評価する。</p> <p>○担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈「キャリア・パスポート」・観察〉 ※「キャリア・パスポート」に記入する。 ※具体的な場面（学校行事や進路選択）を挙げ、児童生徒がイメージしやすいようにする。</p>
終末 ○分	<p>8 振り返り ・体験活動と学校生活のつながりと「キャリア・パスポート」を作成することの意義を確認する。</p>	

6 板書計画